

以上4種類の水平細胞の形態的特徴を併せて報告した。

質問 (第2生理) 金子 章道

1. 報告のあつた細胞のいずれかは、Cajalのintermediate horizontal cellに相当するか。

2. layer I. IIの細胞にCajalの図にみられるaxonはみられなかつたか。

3. layer IVの細胞にはつきりした核をもつ細胞は存在するか。

応答 (第1生理) 橋本 葉子

1. について、Scofopic L typeはC typeの第II層とinternal horizontal cellとの間に入ってくるらしい。

2. について、axonの有無:非常に染りにくい、external horizontal cellでaxonを思わせる像が1例見られた。しかし、Cajalの示すaxonよりは短い。

3. について、internal horizontal cellの核の有無:C-typeの1例に核と思われるものが見られたが、他のhorizontal cellの様にはつきりとcell bodyと核が見えるものはまだ得られていない。

3. 周生期の臓器発育について

(第2病理) ○梶田 昭・上田 国臣

昭和41年4月から48年4月までに剖検された死産児49例、生産児50例、計99例を対象とし、周生期における臓器発育について若干の検討を行なつた。

(1) 胎生27週までの肺は、豊富な間質をそなえ、気腔内面はほぼ連続した上皮性細胞によつておおわれている。28週以後、35週前後までは気腔の拡張不全を示すものが多い。このさい気道末端は対照的によく拡張しているものも多く、このコントラストはとくに生産児で目立つ。36週以後の例では、死産児、生産児とも気腔の発育、伸展は良好なものが多く、生産児では、浮腫、出血等の滲出をみるものが多い。また37週以後、死産児でも羊水性異物が末梢気道ないし気腔に大量に認められるものが激増する。

(2) 肝における造血とくに赤血球系の生成は、胎生約30週まではきわめて豊富で、肝内の連続的な組織をなしているが、31週以後やや減少し、36週以後になると、不連続ないし島嶼状の組織として遺残する。28ないし36週で出生した早産児でも、生後1~3日以後になると、肝造血が著明に減少し、島嶼状となる。

(3) 腎におけるネフロン新生は、胎生約36週まで一定した所見として認められるが、未分化の後腎細胞が集落ないし層をなして存在するのはほぼ28週までで、29週以後には著しく減少し、新生ネフロンにほとんど編

入される。胎生36週以後の例では、未熟ネフロンを示すものはほとんどない。早産児で、数日以後4週まで生存した例にあつても、ネフロン成熟がとくに促進される傾向は認められなかつた。

4. 緑内障を疑わせた視神経乳頭欠損の症例

(眼科) 半田 幸子

視神経乳頭の陥凹と周辺視野におけるマリオット盲斑に連なる視野欠損は、緑内障の特徴的の症状である。緑内障は治療が成功しない限り、進行性で失明に至る疾患であるため早期診断が大切である。今回、61歳の女性で充血を主訴とした患者に、上記のように変状を認めたが、眼圧の経過、緑内障誘発テストその他から緑内障は否定され、結局先天性の視神経乳頭形成不全と診断した。わが国では、乳頭形成不全と鑑別を要する疾患として緑内障をあげた記載は殆どない。この鑑別の重要性を強調するとともに、緑内障性陥凹と乳頭形成不全のそれとの形態上における2、3の相違点について検討を加えた。

5. 腹部外傷の検討、死亡例を中心として

(外科)

○中川 隆雄・飯塚 邦雄・里村 立志

上辻 祥隆・小島幸次郎・倉光 秀磨

織畑 秀夫

近年、交通事故の激増や産業の発達に伴う各種外傷の増加がみられ、外傷を専門に扱う施設もその数を増しつつある。それと共に外傷患者治療上の種々の問題点が指摘されてきている。当科において、昭和44年1月より昭和48年12月までに取り扱い、手術を行なつた腹部外傷は70例であり、死亡例は11例、死亡率は15.6%であつた。2~3の死亡症例を中心に、文献的考察を加えて治療上の問題点を検討した。

6. 膀胱癌の放射線治療に関する臨床的ならびに基礎的研究

(放射線科)

○竹内 脩巳・池内 順子・伊藤よし子

池田 道雄・田崎 英生

(泌尿器科) 梅津 隆子

(現慈大放射線科) 望月 幸夫

私達は昭和38年より高エネルギー放射線治療を主体として膀胱癌の治療を行なつてきた。

治療方針は、膀胱癌T₁T₂、G I G II症例では外部照射による全骨盤照射6000~6500rad/42~50日、T₃T₄あるいはT₁T₂、G III G IV症例では外部照射による全骨盤照射5000~5500rad/35~43日にひきつづく全膀胱照射1000~1500radを追加して、膀胱部総線量6000~6600rad/42